

タダノ

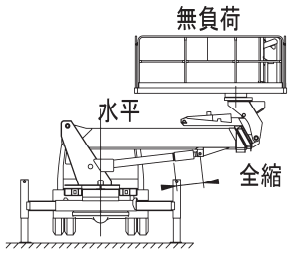
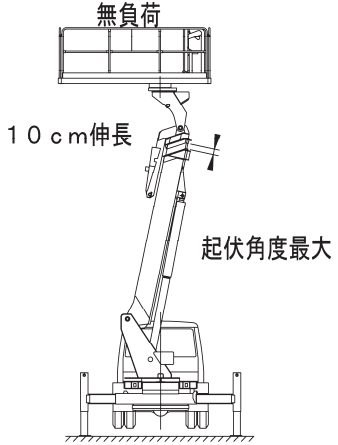
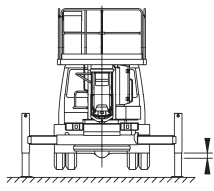
適用範囲		モデル名			AT-280XTG	
		仕様			STD仕様	
		適用号機			371854～	
区分	検査箇所	適用項目 ※測定条件、方法		単位	検査基準値	
作業装置	ブーム	スライディングパッド		上下方向	mm	2以下
		ド部のガタ		左右方向	mm	0.5以下
		スライディングパッド摩耗量			mm	—
		底板ラップ部へこみ		セカンド	mm	1以下
				サード、トップ	mm	1以下
		局部へこみ (但し、へこみ長さは50mm以上)			mm	2以下
	伸縮ワイヤたるみ	セカンド、トップ(サード)ブームの伸長差 (ブーム水平状態でセカンドブームを全縮より約10cm伸長する)			mm	10以下
		調整用ナット	縮側	サード・トップ	N・m (kgf・m)	サービスマニュアル参照
		締付けトルク	伸側	サード・トップ		
	平衡装置	①起伏上げ操作にてブームを水平にする ②作業床内の測定場所に水準器を置き作業床傾斜角度を測定する ③ストロークエンドまで起伏の上げ下げを10回行う。 ④ブームを水平に起伏上げ操作で停止させる。 ⑤作業床の傾斜角度変位量を測定する			°	1° 以下
		上記⑤の状態よりスタートする ⑥ブーム起伏角を約10° 上げる ⑦ブームを水平に起伏下げ操作で停止させる ⑧作業床の傾斜角度変位量を測定する				2.0° 以下
油圧装置	油圧ポンプ	調整圧力(メインリリーフ) ※ゲージポート(アウトリガバルブ)		MPa (kg/cm ²)	17.2～17.7 (175～180)	
		調整圧力(ポートリリーフ) ※ゲージポート (ブーム操作バルブ)			15.2～15.7 (155～160)	
		高速時のポンプ回転数 負荷：ブーム全縮リリーフ時		min ⁻¹	1000±25	
		中速時のポンプ回転数 負荷：ブーム全縮リリーフ時		min ⁻¹	860±20	
		低速時のポンプ回転数 負荷：ブーム全縮リリーフ時		min ⁻¹	710±20	
		油温		°C	40±5	
		作動油		—	—	

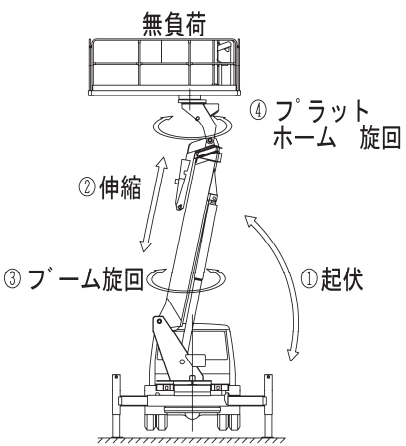
注)スライディングパッド部のガタは場所によって異なります。ポンプ回転数は一部架装キャリアによって異なるものがあります。詳細が必要な場合はサービスマニュアルを参照してください。

トラック式(TG)

適用範囲		モデル名			AT-280XTG
		仕様			STD仕様
		適用号機			371854～
油圧装置	油圧シリンダー ※作業床は無負荷、レバー操作は上げ・伸び操作後中立、エンジン停止後の自然降下量	自然降下量 ※1 (添付資料)	起伏 ※ブーム水平、全縮状態	mm/10min	2以下
			伸縮 ※起伏角度最大 ブーム約10cm伸長状態	mm/10 min	3以下
			アウトリガ・ジャッキ※リフトストロークエンド 手前停止状態	mm/10 min	1以下
			平衡装置 ※ブーム水平、全縮状態・セレクトバルブ は開	mm/10 min	1以下
安全装置	アースリール線	抵抗値		Ω	—
	作業範囲	測定方法	規制装置	作業範囲規制	—
	規制装置	※4(添付資料)		モーターリミッター	—
	起伏角度規制装置	200kg 仕様	ブーム全伸における起伏停止角度		°
			ブーム水平時における伸長停止長さ		mm
	起伏角度規制装置	200kg 仕様	ブーム全伸における起伏停止角度		°
			ブーム水平時における伸長停止長さ		mm
	車輦・ブーム干渉防止装置	旋回、伏、伸縮、首振りが自動停止する事。※ブームレスト格納付近は停止しない		—	確認
総合テスト	作動速度 ※2 (添付資料)	ブーム起伏 ※ブーム全縮		上 下	S
		ブーム旋回 ※ブーム全縮・起伏角最大		右 左	S
		ブーム伸縮 ※起伏角最大		伸 縮	S
		バスケット首振り速度		右 左	S
					円滑に作動
低騒音エンジン	エンジン本体	エンジン回転速度	負荷時 アイドリング		min-1
			吸気弁 排気弁		mm
		圧縮圧力(スターターを5～10秒間回し、最大値を読む)	基準値 限度		MPa
					—
	警告灯(充電、水温、油圧)	—		—	—

注)作動範囲規制装置の測定方法は諸条件等によって異なります。詳細は、サービスマニュアルを参照してください

※1. 油圧シリンダの自然降下量 1. 起状シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム全縮状態で、起操作にて水平にする。 3) エンジンを停止する。 4) シリンダ（ロッド）にマーキングする。 5) 起状操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 ロッドの縮小量は2mm以内/10分 ※油温の高い時は行わないこと	
2. 伸縮シリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム起状角度最大で、伸操作にて10cm伸長する。 3) エンジンを停止する。 4) セカンドブームにマーキングする。 5) 伸縮操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 セカンドブームの縮小量は3mm以内/10分 ※油温の高い時は行わないこと	
3. ジャッキシリンダ 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) ブーム格納状態で、ジャッキ張り出し操作にてタイヤを浮かす。 3) エンジンを停止する。 4) ジャッキインナーにマーキングする。 5) アウトリガ操作バルブを操作し、残圧を抜き1分後に0点をセットする 6) 10分経過後、降下量を測定する 「判定基準」 ジャッキインナーの縮小量は1mm以内/10分 ※油温の高い時は行わないこと	

※2. 速度測定方法 「測定要領」 1) 車体を水平堅土上に設置する。 2) 作業車の作動範囲に障害物が無いことを確認する。 3) 各操作は旋回台で行う。 4) 油温は40±5℃で行う。 ①起状速度 1) ブーム全縮状態で、伏せ操作により「伏」エンドまで下げる。 2) 起操作により「起」エンド停止までの時間を測定する。 ②伸縮速度 1) ブームを全縮状態で、起操作により「起」エンドまで上げる。 2) 伸操作により「伸」エンド停止までの時間を測定する。 ③ブーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) ブーム旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) ブーム右旋回、左旋回共に行う。 ④プラットフォーム旋回速度 1) ブームを全縮、起エンド状態で後方に向ける。 2) デッキ旋回操作により1回転するまでの時間を測定する。 3) デッキ右旋回、左旋回共に行う。	
--	---

※4. 作業半径測定方法

〔測定機器〕

1. 角度計
2. 巻尺
3. 重錘
4. 水系

「測定例」

※測定値や測定方法は、機種によって異なります
また、同じ機種でも張り幅やウエイトの重量によっても異なります
詳細はサービスマニュアルを参照してください。

- 1) 高所作業車を水平堅土に水平に設置する。
(タイヤが浮いていることを確認する)
- 2) ブーム操作は、下部操作の低速側に行うこと。
- 3) ブームを水平状態にし、伸長操作にて AMC100%停止させ、作業半径を測る。
やむを得ずブームを立てて行なう場合は、上部操作で微速「伏」操作にて行なうこと。
※バスケット(プラットフォーム)の積載荷重は機種、または仕様によっても異なっているため各機種のデータを参照すること。
- 5) 規定の作業半径に達してもブームの作動が 100%停止しない場合は、作業半径が大きくなる側の操作は絶対にしないこと。

